# 心豊かな世代が育つ童話の里づくり 419

## ―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

### 『人が人らしく生きるためにできること』

くす星翔中学校　2年
小山　瑞稀

人権は、人がその人らしくあるための権利だと思います。

ぼくは、四年前まで「人権」についてあまり深く考えたことがありませんでした。

なぜなら、ぼくの周りでは一人でさみしそうに過ごしている人がいるわけでもなく、友だちに対する悪口やいじめもなかったので、人権や差別ということを深く考えることなく過ごしていたからです。

ぼくは、人権を少し遠くにあるもののように思っていました。

しかし、小学四年生の時にクラスの中で、友だちの悪口を言う人が出てきて、少しずつ特定の人に悪口が向くようになりました。そして、次第にエスカレートし、気づけばいじめになっていました。

そのことは、クラスでの話し合いで解決しましたが、そのことをきっかけに、ぼくは人権について考え、身近に感じるようになりました。

「人が人らしくある権利を他の誰も侵してはならない。」と思いました。

今では、テレビや本でも人権問題にふれることがあります。

人種差別や障がいを持った人への差別など、なぜまだ続いているのでしょう。

同じ人間のはずなのに一緒に進もう、分かり合おうとしない人がいるから、「〇〇は△△だから…」と勝手な偏見でその人を見てしまっている人がたくさんいるからだと思います。

やはりその人の所為でもないことを勝手なおしつけで判断するのは良くないと思います。

いじめも相手の気持ちを知ろうともせず、いじめる側の都合で始まる場合があります。

みんなそれぞれ一生懸命がんばって一日を過ごしているのに「自分の気持ちなんて知りもしないくせに…」と、自分中心な考えで、他人を傷つけることもあります。

ぼくは、今小学生の時に身近に感じた人権を守り、誰かの役に立ちたいと思っています。

自分の将来の夢にも生かせるように手話を少しずつ勉強しています。五年生の時からしていますが、意外と難しいです。今は、簡単なあいさつや会話は出来るようになりました。

五年生の時、読んだ本に耳の不自由な人が登場する話がありました。その本に惹かれて「自分もこんな風に会話が出来たら」と思い、手話の辞典などを読んで勉強を始めました。

将来は、障がいを持った人たちの役に立てる図書館司書になりたいと思っています。

障がいがあるなしにかかわらず、関わり合って生活することができる世の中になると、きっとそれは人権を守ることにもつながると思います。人権について、ぼくを一番変えてくれたのは、やはり小学校の時の出来事だと思います。

あのことがなかったら、人権を守るために誰かの役に立ちたいとも思わなかったし、手話を覚えようとも思いませんでした。

だからこそ、あの時に人権について身近に感じ、自分で深く考えられて良かったです。

そして、人権を守る世の中へと、自分をつなげていたいです。

人権が尊重される世の中を創ろうと行動する中学生がいてくれることが本当にうれしいですね。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。

また、みなさんの投稿もお待ちしています。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名も可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届けください。